INTERVIEW

PGMホテルリゾート沖縄

荒井達也 総支配人

Arai Tatsuya

「大人の遊びを、沖縄で」

『PGMホテルリゾート沖縄』は、7月3日のグランドオープンを前に4月25日から先行して営業を開始する。平和グループ初のホテル事業を指揮するのは荒井達也総支配人。沖縄での大人の遊び方の常識を、変えようとしている。（本文敬称略）

長野県出身の荒井総支配人がホテル業界に身をおいたのは2005年。その後、北海道のニセコ、長野県の八ヶ岳、京都、沖縄など、総支配人としてホテル運営に携わるだけではなく、新規ホテルの開発も数多く手掛けてきた。ニセコではスキー、京都では舞妓との食事、八ヶ岳では乗馬などを組み合わせ、超富裕層向けのラグジュアリツーリズムを創り上げてきた。

『PGMホテルリゾート沖縄』のプロジェクトにはこれまで、開業準備室長としてかかわってきた。前職は同じエリアにあるリゾートホテルの総支配人だった。

「私は平和グループが沖縄国際ゴルフ倶楽部を取得して『PGMゴルフリゾート沖縄』になり、青木功プロの監修でゴルフ場をリニューアルして素晴らしいチャンピオンコースに生まれ変わらせてきた過程を、同じエリアにあるホテルの総支配人としてずっと見てきたのです。今回のホテル事業のプロジェクトにあたっては、平和グループが沖縄で展開する事業への思いに共感し、自分はPGMという会社を理解できていると思って、手を上げさせていただきました」

沖縄の恩納村という土地でホテル経営に挑むPGM。荒井総支配人はどう挑んでいくのか。

「いま沖縄は、インバウンド需要も見越してリゾートへの投資意欲が高まっています。ラグジュアリなリゾートホテルが集まるここ恩納村には、外資系のホテルも進出してきています。しかし、PGMが恩納村でホテルを開業する意味は、他のホテルとは違う、もっと深い意味があると私は思っています」

沖縄にあるゴルフ場の3分の1が平和グループ

現在、沖縄本島にある18ホール以上のゴルフ場は15カ所。そのうちの5つが平和グループの経営で、その1つがここ『PGMゴルフリゾート沖縄』だ。

「沖縄にある3分の1のゴルフ場が平和グループになったことで、『PGMホテルリゾート沖縄』がハブになって動いていけるようになります。もちろん当社グループのゴルフ場だけでなく、ハイエンドのコースにも、当ホテルのコンシェルジュが動いてご案内できるような友好関係も持たせていただいています。PGMだけで沖縄は変わらないかもしれませんが、こうした施設が1カ所では足りないということになれば、新しい施設がもっとできて沖縄のゴルフツーリズムが発展していく。そして沖縄のマーケットが変わっていく。『PGMホテルリゾート沖縄』の開業はその第一歩だと思っています」

ゴルフ業界が抱える課題はパチンコ業界と共通する。ゴルフ業界も団塊の世代のリタイヤが間近に近づく。今後を見据えると時間はそう多くない。

「これから若年層がゴルフを始めても、団塊世代のボリュームは埋められません。だからこそ新しいユーザーとしてインバウンドを見据えたゴルフツーリズムを沖縄が率先してやっていくべきだと思っています。ゴルフは海外ではライフスタイルスポーツ。私たちが作ろうとしているラグジュアリゴルフリゾートは、日本にはまだ存在しません。だからこそ、『PGMホテルリゾート沖縄』の開業は、日本にまだない価値をゼロから作るチャレンジだと思っています」

全27ホールにナイター設備 夏でも快適にプレイを

冬の避寒地と夏の観光地。どちらのニーズにも対応できる『PGMゴルフリゾート沖縄』。ホテルの開業に合わせ、ナイトゴルフを楽しめる設備を増やした。

「ナイトゴルフは当にいいですよ。かつてLED照明はボ[illegible]すし、芝生の緑もナイターならツー[illegible]

続きはデジタルブックでご覧いただけます。
詳細はこちら